

「情報に振り回されるわたしたち」

河合 和彦

私が、よくお手伝いに行くお寺の本堂に法語が色々と貼ってあります。そのうちの一つに、「吉きつ凶きょうは人によりて、日によらず（吉田兼好よしだけんこう）」と書かれています。それを読むたびに、私たちは言葉という情報に振り回されている事を実感いたします。

何かが上手くいかなかった時に、「今日は日が悪かった」と他のせいにする私たち。

本当に日が悪いと、上手くいかないものなのでしょうか？

本当は自分の失敗を、他のせいにしたいだけなのではないのでしょうか？

「日が悪い」という言葉を隠れ蓑に、事実を隠してしまっているのではないのでしょうか？人間の解釈によって、都合の悪いものは、悪となり、都合の良いものは、善となる。結局そこにあるものは、わたしたち人間の考えです。言葉という情報で、自分や他人を振り回し、時には傷つけ、傷つけられる。

例としてあげれば、葬儀は友引に執り行わない方がよい、とか、葬儀の時に不浄のものを清める為の清め塩をする、などなど・・・きりがいいものです。

これらを一言で言い表すならば「迷信」でしょうか。わたしが師事している先生は、「何を信じていいか迷っている迷信」ではなく、「心が迷っている迷心」なのではないでしょうか？とおっしゃっておいりました。言葉という情報に振り回され、何を信じていいのか解らず、心が迷ってしまう。

自身に起こったことを、自分の事としてしっかり受け止め、それらを受け入れる。そして、それが自信に繋がっていくのではないのでしょうか？「自信」とは、読んで字のごとく、「自分を信じる」です。その自信が、信心に繋がっていくものだと、私は信じております。